

蒙古中の最大河なり、其源六つ、皆抗愛山麓に屬する其西南に發し合して一となり東流して齊老圖河を入れ東北に屈し更に厄赫河を入れ鄂爾坤河と合して北方に流れ貝加爾湖に滙す、流程數百里、大川巨流の加はるもの多く中にも鄂爾坤河と厄赫とは著大なり、高き上流地より貝加爾湖の低地に流下するが故に下流は水勢急にして河床深く兩岸亦急斜をなすと雖も小舟は通ずるを得べし露領との境の邊は河幅廣く兩岸榆柳繁茂し河水亦清深土人は灌溉の用に供す

鄂爾坤河 抗愛山の東と南とに發源し合して東北流して圖拉河を入れ正北向して色楞格河に合す

圖拉河 は肯特山の一枝嶺を以て傲嶽克魯倫の二河と水域を分ち西南流して庫倫に至り西北に屈して流下し鄂爾坤河と相合す

錫喇木倫 は西遼河の内蒙古中を流る、部分の名稱なり、黄河は蒙古の南部鄂爾多斯と稱する地方を過ぐるのみ

蒙古には沼湖甚た多し而して悉く鹹湖なり其大なるは主として西北部に在り、庫蘇古爾烏布薩奇勒稽思伊克阿拉克貝爾池呼倫池等著し

庫蘇古爾湖 北部に在る山湖なり、海拔一千八百八十米にあり、南北二十八里東

西十里、蒙古第一の大湖なり、湖邊峯巒連立し四周より發する諸流皆集注し、更に一流となりて東南より出づ、額赫河と稱す

烏布薩湖 蒙古の北西なる科布多と稱する地方に在り、楕圓形にして周回凡十一里、北に唐努山脈屏立し、東南亦峯巒相連り諸川相集注す

奇勒稽思湖 科布多城の東に在り、周回五十一里の大湖にして西南に伊克阿拉克湖都爾根泊の二湖あり、三湖相通ず、湖邊地低く沼澤多く、灌木雜草繁茂し、牧場に適す、樹木は楊柳あるのみ

貝爾池 蒙古と滿洲との界に在り、南北二十五里東西八里の大湖にして諸川注し、更に一流出て、呼倫池に赴く

呼倫池 蒙古滿洲西伯利の界に近き所に在り、周回凡一百里、克魯倫喀爾喀等の諸大河を收容し、東北に額爾古納川となりて流出す

氣候

蒙古の氣候は一般に酷烈にして寒暑の差大なり、而して冬最も長く夏之に亞ぎ春秋は殆ど無き程短し、是れ土地は支那本部に比して數千米も高く、且氣候を調和する海洋をも有せざるのみならず、緯度亦高きが故なり、沙漠地方に於て春季

溫和の日は攝氏三十一二度に達し時々雷鳴を聞くことさへありて初夏の氣候の如きも太陽一度西天に没すれば忽ち寒冷となり氷點下三四度に降下し冷風肌を撃き飛雪紛々たるを見ることあり以て氣候の激變を知るべきなり冬季は暴風多く降雪頻り秋冬の間は北西の烈風絶えず草木を抜き砂礫を飛ばし天日爲めに晦暎となり白晝暗夜の如きは珍しからず

南部黃河流域及び北部西伯利に接する邊は變化の度比較的小なりと雖も之を他國の氣候に比すれば變化烈しき方なり尙山脈の向背土地の高低により氣候に差異を生ずるは何處も同じと雖も蒙古の如く甚だしきは他に稀なる所とす之を要するに蒙古は亞細亞中にて氣候の最も酷烈極端なる地方にして此の現象は亞細亞沿岸に一種の變向風即ち氣候風モンスーンを起さしむる原因となるなり

物産

蒙古の住民は専ら牧畜を業とし農耕を事とせず故に其産物も家畜を主とし製造工業等の物品に至りては甚だ乏しきなり

(一)動物 家畜は馬、牛、羊、駱駝、犛牛、豚等にして住民皆之を牧飼するを専らとし産出豊かなり

駱駝。は外蒙古に良質のものを産し西北部に多くして東部に少なし其種は單峯雙峯共に産し土人は之を駄用とし騎乗用とす殊に其性質順良にして能く飢渴に耐へ行歩神速なれば沙漠中にては必要の家畜なり

羊。は蒙古中到處に産し重要な家畜なり肉は食し皮は衣裘とし毛は絨を織り骨は器具に製する等用途甚だ多く年々の輸出百萬を以て數ふべく其種類も亦甚だ多し

馬。は體軀小なりと雖も骨格逞しく軍用駄用に供すべく多倫泊トリンポの如き毎年八月の頃は日に數百頭の取引ありと云ふ

犛牛。は青海蒙古の特産にして性河流沼湖の多き濕地を好み阿拉善及び喀爾喀地方亦牧飼す體力強大にして運搬用として妙なり毛は織物とし肉は食用に供して美味乳は濃密にして滋養多く大さ牛に等しく滿身長毛箋の如く密生し毛色には黒と黒に白斑を交ゆるのとあり

山羊。家畜として飼牧するもの甚だ多き外に山洞溪谷の間に群をなして野生するあり阿拉善山の南側殊に多し

野馬。所在群をなし殊に伊克阿拉克湖の南方の山地牧草藁々たる邊數百頭の

馬群棲すと云ふ

此他の動物には虎豹熊鹿狐兔狸獺鼠族等を産し、麋鹿羚羊山羊の多きことは他に其例なき所なり

禽屬には鷹鵠小雀鴉子規燕鳩雉雲雀沙雉等あり就中雲雀沙雉は本土の特産なり

魚屬も江河湖澤に豊かなり

以上の動物より製する物産としては羊毛駱駝毛毛皮黄油乾酪等あり輸出額亦少なからず

植物 米は遼河流域に産出すれども其量少なく、麥類粟黍豆高粱蕎麥等は殆ど沿く分布せられ馬鈴薯蕪荊瓜茄子葱蒜白菜等も産し蕪荊は其名高く、東北部には藍罌粟を栽培するもの多し

菓物 には桃杏栗白葡萄等あり

樹木 には松柏椿樺椴柳等主なるものなり、而して此等樹木の良く繁茂し大森林をなすものは興安山脈なり

藥草も多種産する内にて大黃は最も有名にして産額も亦多く、土人は之を採集

して販賣す、輸出品中重要のものなり

礦物 未だ精確に踏査せられざるも、金銀銅鐵は興安嶺山脈及阿爾泰山脈より多く産し、沙金は古蘇庫爾湖の谷間に出づるもの夥しく、石炭は内蒙古に多く就中阿拉善山脈より産するものは品質佳良なり

商業

蒙古は現今決して商業地にあらず、何となれば海に濱する部分なく又内地の交通機關も幼稚にして物資の運轉資本の流通も亦不完全なればなり、然りと雖も産物少なきにあらざれば、地方的取引亦少なしとせず

賣買城は西伯利との唯一の貿易市場にして、歸化城は支那本部及び諸外國との取引上唯一の門戸たるなり

輸出品の主なるは金銀、靛茶、大黃、黄油、綢緞等輸入品の重なるものは獸皮、諸織物、毛布、羅沙、金屬製器、帽子等なり

政治區劃

蒙古全土を分ちて四大部とす、内。蒙。古。外。蒙。古。青。海。蒙。古。内。屬。游。牧。部。是れなり、戈壁沙漠を界として南を内。蒙。古。北を外。蒙。古。とす、外蒙古に屬する二附庸地、西北部に

在り、唐努烏梁海科布多即ち是れ、青海蒙古は青海の周圍を占め、甘肅省の西南に在り、内、屬游牧部の大なるものは、直隸山西二省の邊外にあり、察哈爾と云ふ蒙古には元の後裔各地に割據するありて統一する所なかりしが、清朝一度之を威服して藩屬としてよりは、境界を正し區劃を設け各要地に城寨を築き、將軍、大臣都統をして之を分治せしめ、理藩院其を統監す、行政區劃を別ちて三大部とし更に小別して數族とす、各族には、今猶會長ありて其地方に君臨し、住民に對し生殺與奪の權を握れり

都 邑

庫倫 是ウルガと稱す、外蒙古北部の一都府にして、圖拉河に臨み、鄂爾坤圖拉二河の流域に於ける政治宗教工商業及び牧畜業等の中心なり、土地平坦開潤の所多きも周圍には又峯巒盤窟し森林鬱として繁茂する所もありて、野獸亦多し、庫倫は海拔一千四百米の高地なるが故に寒氣凜冽なり、市街には喇嘛僧多く生産的住民は僅かに其半に過ぎず、物資を運搬し獸獵に従ひ家畜を牧するなど主なる業務たり、人口は四萬を有す、市街は壯麗宏大人目を眩する、喇嘛胡圖克圖の宮殿あり、禮拜者四方より雲集す

(1) Kiakhta

喀喇和林 是昔東大陸を震懾せしめたる元朝の舊都にして、突厥以來の會長の牙營を設けし所なり、庫倫の西南十里にあり、今や早魃に伴ふ荒廢は此地を襲ひ砂蹟深く英雄の遺跡を埋め、早く既に荒涼の地となり人をして只歴史上の事蹟を思はしむるのみ

烏里雅蘇台 蒙古西北部の一都府にして、喀喇和林の西方にありて、政治上此地方の中心なり、四邊河流沼湖に富み、土地肥沃にして農牧に適す、人口凡五千、物産は家畜を主として穀物之に次ぐ

賣買城 西伯利の界、庫倫の北方八十里に在る貿易市なり、昔は恰克圖と云ひしが、露國と境界を定めて以來露領に屬する方を恰克圖と云ひ、蒙古部分を賣買城と稱し、木柵を以て相界す、道路整然として能く修繕せられ、市街亦比較的清潔なり、貿易品は靛茶を主とし、獸皮、金、銀、家具等之に次ぐ、人口四千あり

歸化城 土人は庫々和屯と云ふ、鄂爾多斯に於ける黄河の東北にあり、地は西南に開け、樹木繁茂し、東北は山峯蜿蜒として天然の城壁を爲す、市街も亦人造の城壁を周らす、支那本部より、烏里雅蘇台、巴里坤等の各鎮に通ずる要路に當り、交通繁く、賣買亦盛なり、物産は家畜を初めとして、毛綢、大理石、細工、製皮、油等なり、人口

約四萬内喇嘛僧二萬五千餘あり喇嘛學校あり

西藏

位置 境界

西藏即圖伯特は崑崙山脈と喜馬拉山脈との間に在る高き盆地にして北緯二十八度より四十度東經七十九度より百三度に互り西は英領印度の北部拉達克加什米爾地方と相接し北は崑崙山脈を以て新疆省と界し東北は崑崙の分派たるアツカダハ(タハ)山の意を界として青海及蒙古に隣り東は四川雲南の二省に接し南は喜馬拉山脈にて尼泊爾布丹及び其間なる西金に界す

地勢

西藏の地貌を形るものは喜馬拉山脈と崑崙山脈となり
(一)喜馬拉山脈は南に張り出せる弓形の大山脈にして西藏の西と南とを限り西部は即ち喜馬拉山脈に平行せる喀喇崑崙山脈及び喜馬拉山脈にして南部は一帶に重疊せる喜馬拉山脈なり尼泊爾の境上に巍峩として聳ゆるものはエグレスト山にして海拔八千八百四十米實に世界第一の高山と稱せらるる山脈は尙東に連り東經九十七度の邊に至れば西北より東南に殆ど平行に走れる數

- (1) Tibet
- (2) Ladak
- (3) Kashmil
- (4) Akka tagh
- (5) Sikkim
- (6) Everest

多の山脈に衝突して其走向を失ふ

喜馬拉山脈は南面急峻にして高く北面西藏の側に於ては平行せる多くの山脈をなして漸次北方に低下し比較的緩傾斜を以て西藏の盆地に臨む

(二)崑崙山脈も數多の山脈殆ど平行に巴米爾高原を起點として東に走れる大山脈にして東經八十五度邊にて一は分れて東北に向ふ之をアルチンタハと云ふ遠く延びて阿拉善山陰山與安嶺山脈等を起す他は尙東に走る之をアツカダハと云ふ是れ西藏の北境をなすものにして東經九十二度の邊にて少しく東南に偏す其邊をマルコボロ山と云ひ數多の平行せる小山脈あり猶東して秦嶺山脈となる

アツカダハの南側に於ては低き小山脈本脈に平行して幾重にも畝の如く隆起し漸次南方に低下し以て西藏の北西部より中央南部に互りて所謂チャンタン(Chang-tang)の高臺を作す

前藏の中央には巴顏賀喇當拉等の高山脈並行横斷して黄河揚子江の二大水及瀾滄江イラワディーの諸大河此間より發源す明治三十一年中ウエルエー大尉マルコム中尉は北方西藏を探險して揚子江の上流を横ぎり其發源處は東經九十

(1) Altyn-tagh

二度北緯三十五度の邊より分水せることを確めたり
 チヤン、タンとは土語に北方の曠原の意なりと云ふ、西藏に於ける重要な一地方にして北部崑崙の南麓より波狀の丘陵的地貌を形りつ、西南方に擴張し、西南にては喜馬拉山脈と結節し、南は騰葛里泊に至り喜馬拉山脈の内側と結合し、夏尙ほ白雪皚々たる大山岳となる
 チヤン、タン高臺の平均高度は海拔四千米にして富士山嶺より高きこと實に二百米有餘なり

河 湖

西藏は地球上最高の盆地にして又諸大河の發源地たり
 東經八十二度邊の喜馬拉山脈中より發源して、西藏の南部を東流するは雅爾藏布河にして其流域は西藏中最も生産的にして又最も人口稠密なる地方なり、喜馬拉山脈の東端より南に屈し更に西南流して阿薩木地方に下る是れ所謂布刺麻特刺河なり
 雅爾藏布河の源と相接して發源し反對に喜馬拉山脈の縦谷に沿うて加刺古拉母地方を濕ほしつ、西流するものを印度川の上流とす

- (1) Yarlungpo
- (2) Assam

- (1) Mur-Ussu
- (2) Tangla
- (3) Lantsan kian
- (4) Manasarawa

西藏の東部に於ては印度支那山脈の谷に沿うて殆ど平行に東南流する諸大河の源流あり、マルコポロ山脈の南麓に發源する揚子江の上流木魯烏蘭河、當拉山南に發する眉公河の上流瀾滄江、騰葛里泊の北よりする薩爾文の源流怒江、雲南省に入りては潞江と云ふの如き即ち是れなり
 湖沼 西藏の地形たる四周巍峩たる山岳にて圍まれたる盆地にして地史の古にありては全土一大湖にてもありしやと思はる、程の形勢なるが故に、此處に湛ゆる湖水沼澤甚だ多く而して皆鹹湖にして一も淡水のものなし、主なるは騰葛里泊を最大とし殆ど中央にあり土人は此湖を神聖視し其寒水に沐浴するものなり又西南隅にマナザラ湖あり又土人の沐浴する湖なり其他、牙木魯克海、布喀池、伊克沼等なり

氣 候

西藏は土地甚だ高く四圍高峻の山脈なるが故に外來の濕氣は皆遮ざられ空氣常に乾燥して天色蒼く冬期と雖も雪多からず夏季に至れば雨晴定まらず寒期長くして且つ酷烈なり而して夏は短かしと雖其間は甚だ熱し、チヤン、タン地方に於て夏日攝氏四十三四度の苦熱を感ずるも夜に入れば忽ちにして零下三四

度に冷却すと云ふ、以て其温度の激變を知るべきなり、廣さ二十里、幅十二里の騰葛里池の如き毎歲十一月初めより三月末まで氷結し人畜其上を徒歩し得べし、西北部には降雨殆どなく、土耳其斯坦沙漠地方より吹き來る風は砂塵を交へ天色爲めに銹銅色を呈するは常のこと、す

産 業

西藏は雅爾藏布河の流域を除けば地味多くは礫礫にして氣候亦乾燥寒冷なる爲めに農耕に適せず、牧畜業を主とす、馬、驢、羊、山羊、羚羊、犛牛(ゴウ)等は野に山に群棲し、土人の牧飼するもの亦甚だ多く、就中犛牛は西藏の特産物にし重要な動物なり、土人の生命は繋りて犛牛の上におり、生ける時は之を駄用とし、屠りては肉を食し、毛を天幕に織り、骨角は家具を製し、糞は燃料とす、蓋し西藏には樹木甚だ少く燃料に供すべきもの乏しければなり

地下の産物は甚だ豊かにして金、銀、土耳其古玉(Turquoise)、岩鹽等殆ど無盡藏と稱せらる

商 業

商業は幼稚にして今日猶物々交換の時代にあり、拉薩は西藏商業の中心地なり、

(1) Darjiling

僧侶俗人之れに従事するもの多く、家畜茶、貴金屬、織物等の取引き行はる、輸出品の主なるものは金、銀、寶玉、岩鹽、珊瑚、犛牛、麝香等にして、輸入の主なるは蒙古人よりは鞍、馬具、支那人よりは靛、茶、絹、鐵器、西金及び布丹よりは米穀、烟草、印度よりは羅沙、藍、砂糖、香料等なり、日本の雜貨も廣東の印度人等の手を経て輸入せらる、もの多し

交通路の主なるは、支那蒙古よりは四川省の成都より打箭爐(一萬九千尺)を経て大雪嶺山脈を横斷し、西藏の貿易市場たる巴塘(巴塘)に入り、其れより雅爾藏布の流域に出で、拉薩に至る、此間一千三十里あり、巴塘までは一驛毎に土司及糧臺ありて西藏への往來を監査す、又印度方面よりは布丹と尼泊尔の間なる(1)ダージリンよりするもの此路は曩に河口、慧海及ヤングハスバント大佐の率ゆる西藏遠征隊等の進入せる路なり、又加什米爾の禮拉薩克よりする通路あり、其外北方新疆省及び青海蒙古より通するものあり

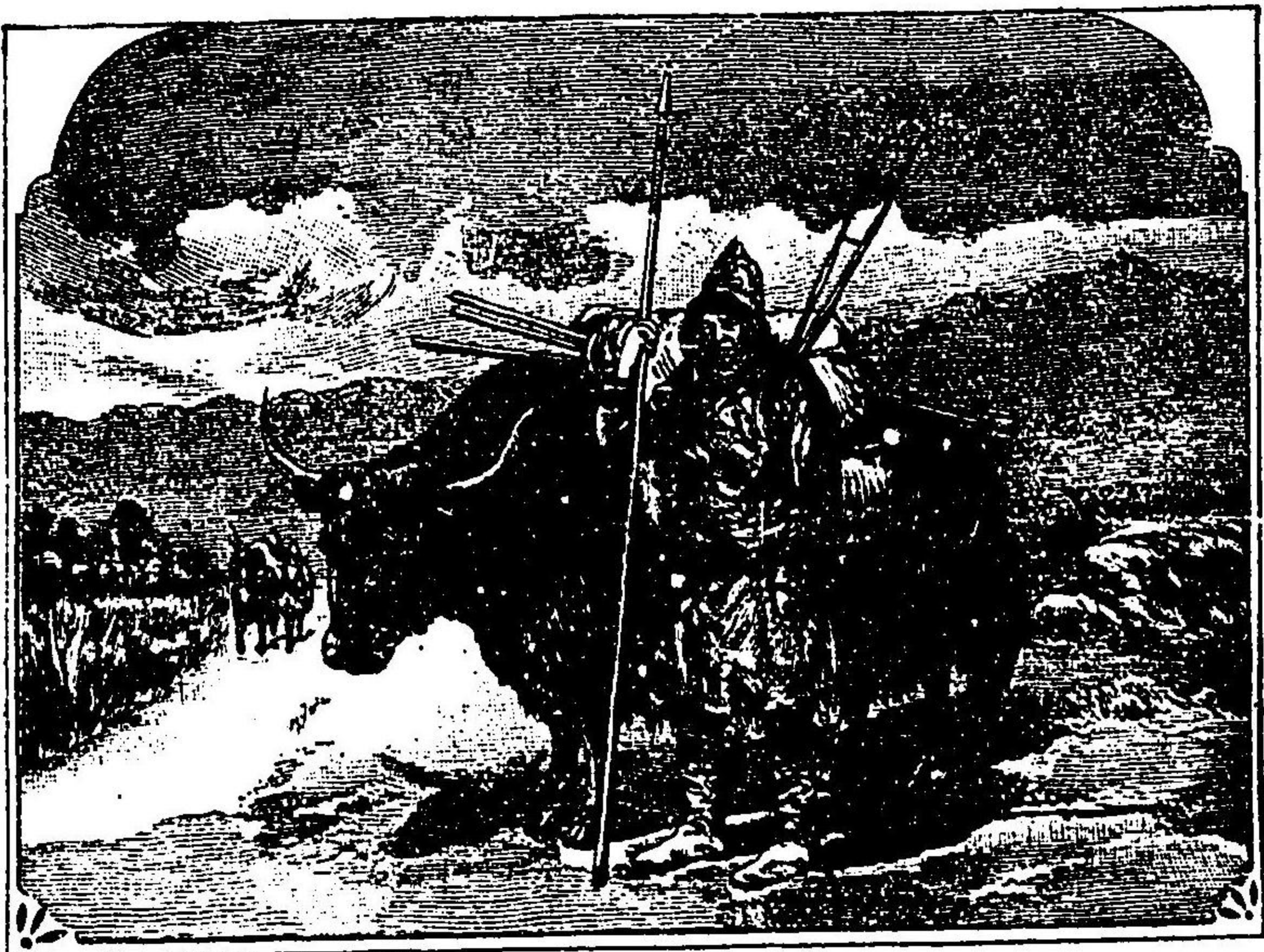
近年英吉利の西藏遠征は西藏の開發する端緒にして行く行く鐵道を設け道路を修め、世界の秘密國たる西藏を知らんとし、古來土人の習慣として他國人は一切入るを禁せる此國の首府拉薩に兵力を以て侵入し、今や英藏條約をさへ締結

するに至れり、されば西藏も今より世界の潮流に乗出して千年の夢より覺めて商業も亦盛に向ふなるべし

政教 是西藏開國以來喇嘛教にして、其崇拜信仰の對象は觀世音(Avalokitesvara)にして、其權現を達賴喇嘛(Dalai-lama)と云ふ、拉薩の宮殿に住し、民政宗教、財政の大權を握り、精神上にも物質上にも殿たる西藏の大王たるなり、達賴喇嘛の權力は實際、其宰たる噶倫(Gyalpo)の握る所なり、此は西藏の權勢者等の選出せしを、北京政府の認せしものにして終身官なり

外交及び兵事は北京政府より派遣せる駐藏欽差大臣の掌る所にして、理藩院に隸し、正副二人あり、下に參贊、會計屬等ありて之を輔く然れども其實權は噶倫にありと云ふ

住民 西藏は會て吐蕃人の棲息地にして一に吐伯圖と言ひ轉じて「チベット」となりしならんと云ふ、支那人は元時代より彼等を稱して西藏人と云ひ、彼等自身も亦「西藏」と稱ふ、唯歐洲人は彼等を「ポッチイメン」と呼べども其意不詳なり、彼等は「ジビチック」族に非ず、又蒙古種にも非ず、其骨格寧ろ「アリヤン」に似て、面長く鼻高く、男女共容貌美麗にして俳優の如く、四川省より少しく進める巴塘に到れば



牛 鞍

彼等の多く往來するを見得べし
人口 西藏には生涯獨身にて過す僧侶及び一妻多夫の惡習慣あるために大に人口増殖を妨げ其密度甚だ小にして一方哩に約十二三人に過ぎずと云ふ
西藏人は喇嘛教を信すること甚だ厚く各家必ず佛像佛具を供へ朝夕に念佛を唱ふ人死すれば喇嘛僧に請ひ其命によりて水葬、火葬野葬す僧を尊敬すること甚しく爲めに僧となる者多く僧俗の人口相半するに至る故に人口少なく土地廣く奇珍の生産物多しと雖も生産的人民よりも寧ろ不生産物的人民多きを

以て繁殖の道未だ開けず只游牧を以て唯一の生業とし彼の犛牛は生活上至要の家畜なり

俗人は支那の如く辨髪する者あり或は蓬々として亂髪なるあり、女子は多く、二條に辨髪し或は數條に分辨す服装は支那服よりも寧ろ日本服に近き寛濶なる袖を着く多くは長靴を穿ち或は跣足あり婦女は筒袖の上着に褶多き袴を着く僧侶は日本僧の法衣と同じく其色赤黄白の三種にして服地は普羅織なり容貌は支那人よりも寧ろ日本人に似たりとの説あり身體を洗浴することなく甚だ不潔なり家屋は石を用ゐて築き支那風よりも西洋風に近く頗る堅牢なり冬季は床下に火を焚きて室内を暖む石炭なく又薪料に乏しきを以て犛牛の糞を用ゆ又「チンコー」と稱する泥炭に似たる燃料を用ゆと云ふ

食物は麥粉を常食とし即ち麥を炒り粉として食す米は雲南の輸入に係り甚だ不廉なり牛羊最も豊に鳥肉又多し魚肉は宗教上之を食せず菓物には橘梨葡萄多く野菜亦乏しからず土人は一種の麥酒を醸造して之を飲用す

文字は印度梵字に似たるものありて比較的數字を知る者多し拉薩府には寺小屋の如きものあれども尙ほ高尚なる教育は喇嘛僧の司とる處にして寺院に就

- (1) Utsan
- (2) Usutsan
- (3) Innglavhe

き名僧によりて講習するを常とす經文の如きは頗る貴重之物なり

通貨は藏銀と稱する銀貨あり又印度の「ルーピー」貨幣に偏ねく運用す而して支那の馬蹄銀及小銀貨は却て不通用なり

地理上西藏を別ちて前藏(東部)後藏(西部)とし政治上は之を別ちて烏(三藏)阿(三藏)喀(木) (Kham)の四縣とし各知事を置きて治めしむ尙他にも地方には小知事會長ありて駐藏欽差大臣に直隸す四縣知事は多くは世襲にして小王國の如く領内の住民に對して生殺與奪の權を握る

阿里と名くるは西部は英領印度に接し南は尼泊尔に隣る地方にして小西藏と稱せられ拉達克及びバルチを含み英領印度の境に近く貨勒自彌拉達克城尼泊尔に隣りてマンジツル等の都邑あり

烏藏 烏及び藏は雅爾藏布の流域地方の名稱にして西藏に於ける政治宗教産業商工業等の中心をなす富源地なり並稱して烏藏或は烏斯藏と云ふ都邑寺院の主なるもの殆ど此地方に在り

雅爾藏の上流の右岸に因具拉比あり是より東すること約四十里に日喀紫の町あり後者は駐藏參贊の駐劄地にして傍に札什倫布の巨刹あり

- (1) Lhasa
- (2) Potal
- (3) Gyantse
- (4) Chamdo
- (5) Batang
- (6) Litang

拉薩⁽¹⁾には雅爾藏布の一流流たる藏河の右岸なる海拔一萬一千九百尺の高臺に在りて周圍十五清里我三里人口は詳ならざれども喇嘛僧二三十萬俗人亦二三十萬人支那人二三千あり此府は西藏に於ける政治宗教商工業牧畜の中心にして又風俗習慣の源泉地たり市街は後に鯨魚山を負ひ前に九龍山及牛頭山を控へ市内廣潤清潔にして公園あり官舎あり宮殿あり寺院あり並木路あり風景殊に佳なり大梳竿二梳竿講經座の三街の如き最も雜沓なり駐藏欽差大臣茲にありて全西藏を統治し達賴喇嘛は街頭高く建てる金色燦爛たる⁽²⁾普陀落の宮殿に住して四方の信徒を吸集す大招寺は普陀落の宮殿と相接し喇嘛宗の大本山にして内に西藏開國の英主吐蕃王が唐太宗より公主を迎へたる時太宗の贈物たる宏大なる佛像を安置し光輝燦然とし能く信徒を眩惑するに足る傍に修道院講堂等あり商業に於ては前述の輸出入品殆ど此處にて取引せらる工業には紺屋煎茶製造貴金屬細工陶器佛像鑄造石工等ありて佛堂佛畫に關する美術頗る發達せり雅爾藏布河を隔つる南岸に⁽³⁾ギヤンツェあり英兵進入の町なり喀木。東部四川省に接する地方なり首府を⁽⁴⁾察木多と云ひ東南は開潤なる野原に臨み牧畜に適す東に⁽⁵⁾巴塘⁽⁶⁾裡塘の二都あり共に支那と交通の要路に當り商業

取引行はる

新疆省

位置 境界

新疆省の西は阿爾泰山脈を以て露領土耳其斯坦及び西部西伯利に界し崑崙山脈によりて英領印度西藏青海蒙古に接し東は戈壁沙漠を以て蒙古に連り北は阿爾泰山脈の一支脈たる塔示巴⁽¹⁾哈台山脈を界として蒙古と相隣る面積五十七萬九千七百五十方哩

地勢

西南隅巴米爾⁽²⁾の大山彙より東北に延びたる大山脈は天山山脈と云ひ中央を東西に横斷して新疆省を南北の二つに分つ北を天山南路或は回疆或は準噶爾と云ひ南を天山南路或は回疆或は喀什噶爾又西なる露領土耳其支丹に對して東土耳其斯坦と呼ぶ

天山南路の西の天山山脈は所謂葱嶺にして古來通行難しとせし所而して南方青海蒙古及び西藏と界する山脈は崑崙山脈及其支脈たる阿爾金山にして山勢共に雄峻なり北は天山の大山脈なり斯くの如く四周高岳にて回ぐる天山南路

- (1) Dzungaria
- (2) Kashgar
- (3) Altyn-tagh

の盆地は海拔平均八百乃至千二百米にして西南より東北に傾斜し、天山々脈の南麓吐魯蕃の邊は土地非常に低く海面下五十乃至百五十米なり、天山北路の西天山の北は西北より東南の走向を有する短かき數多の山脈が重疊して次第に東北に連續し、恰も東北走する大山脈の如くなれるものにして之を阿爾泰山脈と云ひ、或るものは固有の走向に發達して天山北路の北を限る即ち塔爾巴哈台山脈なり、北路の地たる東南に高く西北に低き頗る肥沃の山地なり

河湖

新疆省の水系は之を二大別するを得べし、新疆の伊犁河、回疆の塔里木河、是れな

- (1) Turfan
- (2) Tarim
- (3) Kashgar
- (4) Yarkon-Darya
- (5) Khotan
- (6) Lob-nor

(一) 塔里木河 は回疆の殆ど全體を其流域とす、故に地理學者は回疆を塔里木の盆地と稱す、源流の主なるもの三、西は巴米爾高原中に發し東流するものを喀什噶爾川と云ひ、南は喀喇古爾母山脈の北麓に發源して北流するもの二あり、西なるを葉爾羌河、東を和闐河と云ふ、共に北流し東經八十一度北緯四十一度の邊にて僅距離を隔て、西より來れる喀什噶爾河と相會流して塔里木河となり、東北流しつ、數多の小河を入れ、遂に其方向を東南に變じ、羅布泊に注ぐ、塔里木河の

右岸より廣く南方に互る、一帶は沙漠にして、東より西に移動する砂丘、鹹の如くに發達し、降雨稀にして暴風常に吹き荒み、砂塵天を掩ひ、天日爲めに晦曠、夏は炎熱、燒くが如く、冬は寒氣凜冽にして、塔里木河爲めに數月の間氷結す、然れども上流地方は地味肥沃にし、稍濕潤、菓實穀物よく成熟し、樹木雜草又地表を飾り、農業牧畜に適すべし

(二) 伊犁河 は天山山脈の北麓に發源し、新疆の西部を灌漑し、西流して阿爾泰山脈の縱谷に沿うて西部西伯利に入り、更に西北流して巴爾喀什湖に注ぐ、伊犁流域は地味非常に豊饒にして、濕潤よろしきを得、氣候亦比較的温和なれば、植物能く繁茂し、産物豊かなり

湖沼及び河口なき川澤等甚だ多し、湖沼の主なるは回疆の羅布湖、博斯騰泊、新疆の赫薩爾巴什泊、喀喇塔拉泊等なり

氣候は西藏と相似たり、寒暑酷烈にして、激變甚だし、但伊犁流域は稍穏和なり、産業は住民は主として牧畜し、又耕作し、遊獵し、採鑛し、行商す、産業産物西藏と大同少異なり

政治は乾隆の末年準噶爾を平定せし時、伊犁城を置き、施政の便をはかりて南北

(1) 伊犁

(1) Hami

路を合一し理蕃院に属する伊犁大臣を派遣して統治せしむること、せり然れども猶各部に會長即ち伯克(Baiki)ありて其部内の住民に對して生殺與奪の權を握れり

宗教 是回教を宗とし佛教も亦行はる

人口 新疆の面積十四萬七千九百五十方哩、人口約六十三萬即ち一方哩の住民四人有餘に過ぎざる割合なり、回疆の面積四十三萬一千八百方哩、人口約六十萬一方哩に二人に満たず、是に由て此を觀れば新疆省は殆ど無人の地に近き觀なきを得ずと雖も、此は沙漠其他人の住み得ざる地方多きが爲めにして苟も人の住居し得る所に於ては人口多く都邑村落亦少なからず

都邑

回疆即ち天山南路に於ける都の主なるものは左の如し

哈密 東北蒙古境に近く在りて交通の門戸に當り、甘肅省の甘州より嘉峪關を経て天山南北路に至る要路にあり行商隊商の集散する所、百貨輻輳の商業地なり、北に負へる幾々たる山脈を超ゆれば巴里坤に出つべし即ち會てマルコポロ氏に踏查せし所なり古の伊吾盧なり

- | | | |
|-------------|---------------|-------------|
| (1) Khotan | (5) Terekti | (9) Kutscha |
| (2) Kiria | (6) Turfan | (10) Aksu |
| (3) Yarkand | (7) Bagratsch | (11) Barkue |
| (4) Kashgar | (8) Karaschar | |

(1) 和闐 和闐河に濱し西紀六七世紀の頃は一王國の首都たりき、近傍は草木よく繁茂し地味甚だ肥えたり、産物には毛布、金屬細工等あり羊毛金糸にて製せる花氈は殊に著名なり、近き崑崙山よりは金、銀、玉、鐵、鉛、銅、硝石、硫黃、煤炭等の産出あり其東南にキリア府あり崑崙山の一支脈拉當山脈となりて西藏に入る所なり

(2) 葉稱羌 葉稱羌河に臨み草木繁れる肥沃の地に在りて米、麥、菓物、棉花等を産し又蠶を養ふ、中央亞細亞より加刺古拉母越を通りて來る商人此處に集り、甚だ繁昌且つ富有の都邑なり

(3) 喀什噶爾 同名の河に沿ひ近郊能く耕耘に適し、樹木雜草茂り、地味豊饒なり、テレンチ越より來る露領土耳其斯坦人との貿易の中心地にして、金銀の裝飾品、絹布、絹糸、棉花、毛布等を輸出す

(4) 此他哈密の西に吐魯蕃あり古は車師と稱せり、バチ湖の北畔に喀喇沙爾あり、其西に克沙雅及亞克斯等あり亦地方的有名の邑たり

(5) 新疆即ち天山北路に於て著名の都邑と稱せらるゝものを擧ぐれば

(6) 巴里坤 哈密の北に在りて鎮西廳の所在地たり、哈密より新疆に入る要路に當り、南に高岳を負ひ同名の湖に臨み氣候の寒冷極端なるを以て有名なり

- (1) Urumchi
- (2) Bogda
- (3) Kuldsha
- (4) Munas
- (5) Kurkarauzu

烏魯木齊城⁽¹⁾土人は紅兒廟と云ふ、新疆の南部中央に在り、迪化州⁽²⁾を置き地方の重鎮とす故に迪化府とも云ふ四達の要衝にして商工業亦繁盛なり、市街整然として店舗相連る、西方近くに沙岡あり石炭の産出無盡蔵と稱せらる、東南に三峯の山あり四時白雪皚々水晶の山の如し土人は靈山と稱へ之を崇拜す即ちボグ⁽³⁾ダ山なり

巴里坤以西伊犁に至るまで高嶺峻岳重疊し白雪常に山嶺を掩ひ壯美の景をなす、而して伊犁流域に出づれば、地味非常に豊饒にして、藥物穀物樹木雜草繁茂生長し新疆に於ける唯一の富源地たり

伊犁⁽⁴⁾は一名をクルヂア⁽⁵⁾と稱し伊犁河盆地の肥沃の地に在りて伊犁河の右岸に濱す商工業製造業及び牧畜農耕の中心たり又富と繁華の中心たり此の谷を沿うて露國が東侵の道とせしを以て屢々露國との交渉事件ありて清國の大に苦慮せし所なり伊犁事件是なり

此他瑪納斯⁽⁶⁾庫爾喀⁽⁷⁾喇烏蘇⁽⁸⁾惠遠城等は地方的都會にして有名なり

清國之部了

明治三十八年六月二十五日印刷
 明治三十八年六月二十八日發行



著者 矢津昌永

發行者 丸善株式會社
東京市日本橋區通三丁目十四番地 専務取締役

右代表者 小柳津要人

印刷者 野村宗十郎
東京市京橋區築地二丁目十五番地

印刷所 株式會社東京築地活版製造所
東京市京橋區築地三丁目十七番地



發行所

東京市日本橋區通三丁目十四番地
 丸善株式會社
 大阪市東區博勞町四丁目
 丸善株式會社支社

著共君任可星赤○君永昌津矢

高等地理

理地國韓 部洲加利弗阿 部洲巴羅歐

頁餘百貳數紙 頁餘百三數紙 頁餘百五數紙

錢六稅郵錢拾六金價正 錢八稅郵錢拾八價正 錢貳拾稅郵錢拾貳圓實價正

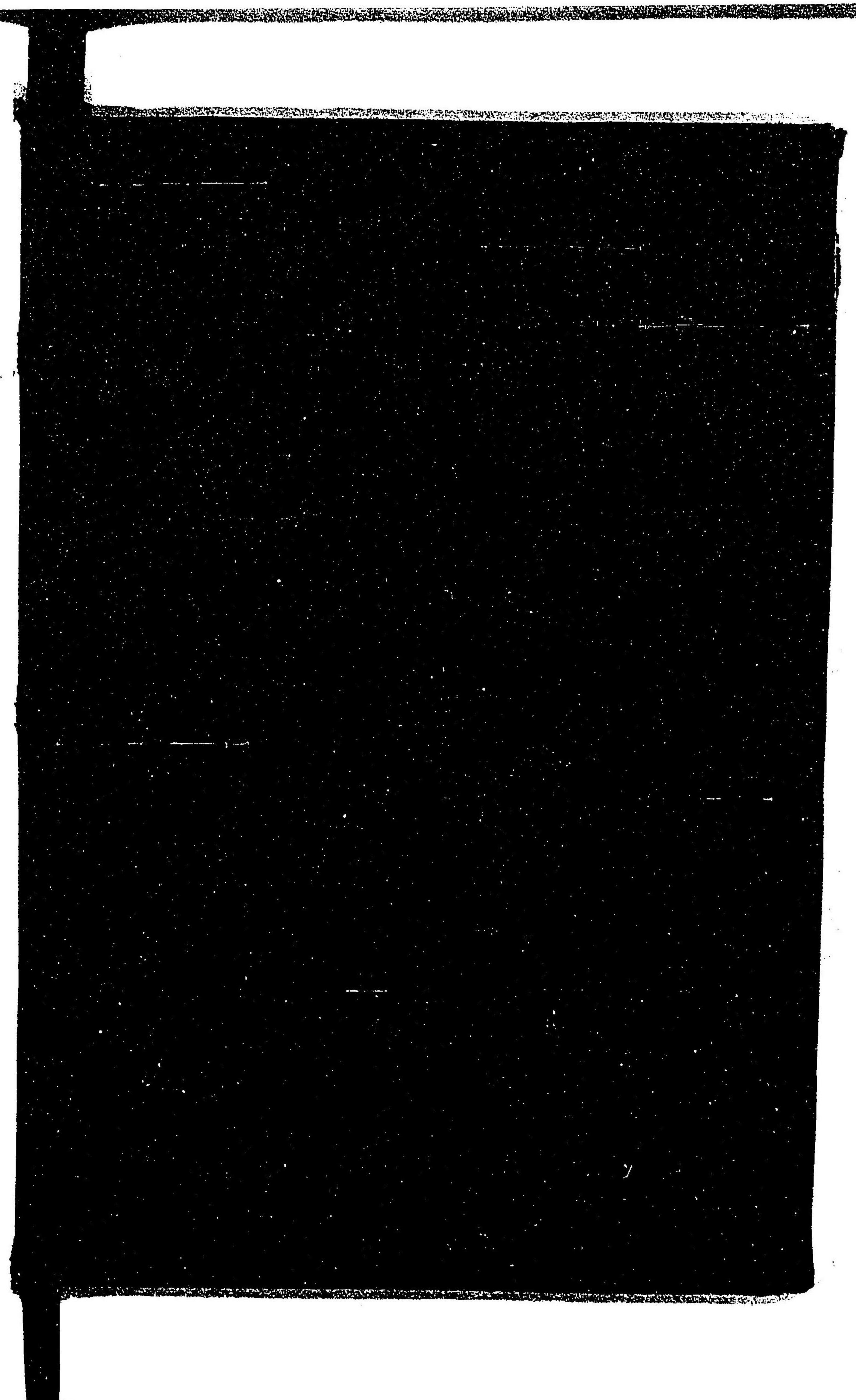
評批之書本

◎教育時報(二十六年八月二十五日) 地理的知識の吾人日用百様の事務に必要なるは今更替を要せず本書は英米法露の世界的局面に轉進するに際ひ交際諸國の事情は勿論其他諸外國の狀態を詳悉せんとする需用に際し併せて地理的知識を新學研究家の參考に資せんが爲め著者は先づ第一卷として歐羅巴部を出版せり流石に専門家の著述ありて地理學に關する必要なる材料は悉く之を網羅し而して其記事の詳密なる各統計の最新なる他に其類を見ざる所一般人士にして試に一編を座右に備へなば其日常の用務に便益せる決して尠からざるべく又教授者研究家には無二の好參考たるべし吾等は一日も早く該書の完結して社會に多大の貢獻を爲さんことを待つ

◎國民新聞(二十六年九月二十日) 著者は地理學の教授者及び世界の地理に就て高等なる智識を得んと欲するもの、參考に供せんとして高等地理五卷の著述を企て茲に其第一卷として歐羅巴部の出版せり本書は主に Philips Modern Geography によりて編述せられたるものにして歐洲諸國の天然地理及び政治地理に關する最新の智識と最新の統計とを集めたれば實に地理學の專家に向て有益なるのみならず尙も歐洲の現狀を地理的に研究せんとするものには頗る有用の書なり著者が各地の必要なる歴史を述べ現在に於ける關係的地理を説くに精細緻密なる勢力を費したるは本書として他の地理書の及ぶ能はざる價値あらしむる所以の一なり若し其組織の整然として而して題目の大小によりて其文字所の記述の分量を程よく按排したる點に於ては此種の著作に於て非凡なる著者の伎倆を認識せざるを得ず云々

◎地學雜誌(二十六年九月十五日第十五卷第七十七號) 本書は地理學研究者の參考書として編纂せられたるものなりと全前五卷より成り内第一卷歐洲の部は既に先月發行せり本書には美麗なる歐洲の人口統計圖を附し其他數多の統計圖表あり地名は主としてイギリス讀みに依れるも歐字の記入なければ検索に困難を免ゆるは遺憾なり材料の富麗にして記事の詳密なることは邦文著書中未だ見ざる處殊に岡田得憲の政治地理には重きを置かるゝもの、如く又其文章は獨特の形容詞を用ひて例もながら讀みて面白き書なり

77
183



026556-000-3

77-183

清国地誌

矢津 昌永/著

M38

ADD-0230



